Asia Indicators

発表日：2021 年5月 14 日（金）

インド、3月までは生産活動は活発であった模様（Asia Weekly(5/7～5/14)）

～4月のインフレ率は鈍化するも、生活必需品を中心にインフレ圧力はくすぶる展開が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹（TEL：03-5221-4522）

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
5/7（金）	**（台湾）4 月輸出（前年比）**	**＋38.7%**	**＋26.9%**	**＋27.1%**
	4 月輸入（前年比）	**＋26.4%**	**＋24.0%**	**＋27.0%**
5/11（火）	（中国）4 月消費者物価（前年比）	＋0.9%	＋1.0%	＋0.4%
	4 月生産者物価（前年比）	＋6.8%	＋6.5%	＋4.4%
	（フィリピン）1-3 月実質 GDP（前年比）	▲4.2%	▲3.0%	▲8.3%
	（マレーシア）1-3 月実質 GDP（前年比）	▲0.5%	▲2.0%	▲3.4%
5/12（水）	**（韓国）4 月失業率（季調済）**	**3.7%**	**－－**	**3.9%**
	（フィリピン）金融政策委員会（翌日物借入金利）	2.00%	2.00%	2.00%
	（インド）4 月消費者物価（前年比）	**＋4.29%**	**＋4.20%**	**＋5.52%**
	3 月鉱工業生産（前年比）	**＋22.4%**	**＋17.6%**	**▲3.4%**

（注）ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

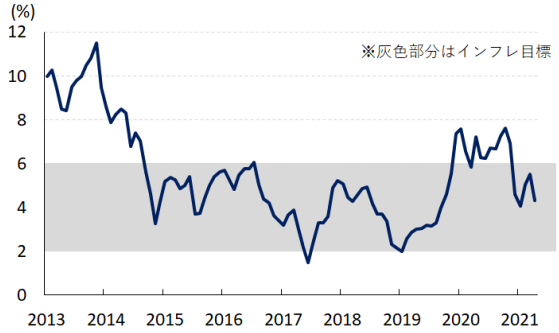
[インド]～3月まで生産活動は底堅く推移も、4月以降は感染再拡大による大幅下振れが避けられない模様～

12 日に発表された４月の消費者物価は前年同月比＋4.29%となり、前月（同＋5.52%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は＋0.70%と前月（同＋0.13%）から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格の上昇は一巡している一方、生鮮品を中心とする食料品価格は再び上昇傾向を強めており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっている。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率もわずかに伸びが鈍化しているものの、引き続き高水準で推移する展開が続いている。感染力の強い変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けて、首都ニューデリーや最大都市ムンバイで都市封鎖（ロックダウン）などによる行動制限が再強化されており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れも追い風に需給ひっ迫も重なり幅広い消費財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、サービス物価も押し上げられるなど幅広くインフレ圧力が強まる動きがみられる。

また、同日に発表された３月の鉱工業生産は前年同月比＋22.4%となり、前月（同▲3.4%）から３ヶ月ぶりに前年を上回る伸びになるとともに、10 年半ぶりに二桁%の高い伸びとなるなど急速に底入れしている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も４ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れが進んでいる。世界経済の回復による外需の底入れに加え、家計消費など内需の堅調さを反映して幅広い分野で生産活動が底入れの動きを強めている様子がうかがえる。ただ

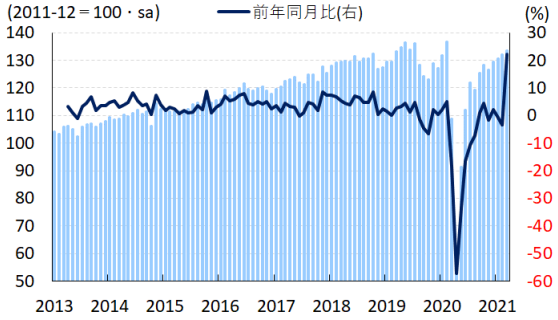
し、３月以降は変異株による新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、４月にはニューデリーやムンバイなどを対象に都市封鎖が行われるなど、行動制限が再強化されたことで生産活動に悪影響が出る動きもみられるなど一転して下振れすることは避けられなくなっている。

図１ IN インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図２ IN 鉱工業生産の推移

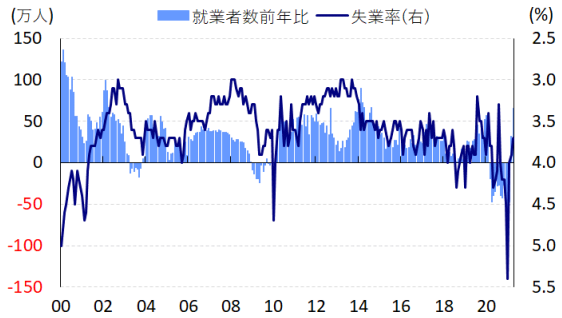


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～失業率は8ヶ月ぶりの水準に低下も、高齢層で改善の一方、働き盛り世代や若年層は厳しさが続く～

12 日に発表された４月の失業率（季調済）は 3.7%となり、前月（3.9%）から 0.2pt 改善した。失業者数は前月比▲6.3 万人と前月（同▲3.2 万人）から３ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを一段と強めている。年代別では 60 代以上の高齢層や 20 代の若年層で拡大する動きがみられる一方、30 代や 50 代で減少する動きがみられるなど年代ごとに跛行色が強まっている様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比＋6.7 万人と前月（同＋12.8 万人）から３ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど一段と底入れしている。年代別では 20 代や 40 代で減少する動きがみられる一方、50 代や 60 代以上といった高齢層を中心に拡大傾向を強める動きがみられる。雇用形態別でも、非正規雇用者を中心に雇用の底入れの動きが強まっていることが確認されるなど、質的な改善にはほど遠い状況が続いていると捉えられる。他方、労働力人口は前月比＋0.0 万人と前月（同＋1.0 万人）から拡大の動きに一服感が出ており、年代別では 50 代や 60 代以上の高齢層で労働市場への参入意欲が強い一方、30 代や 40 代などで減少するなど労働市場から退出する動きが根強い様子もうかがえる。こうした動きを反映して労働参加率は 62.7%と前月（62.7%）から横這いで推移しているものの、高齢層で上昇している一方で若年層や働き盛り世代で下落するなど対照的な動きがみられる。なお、当研究所が試算した 10 代及び 20 代といった若年層の失業率は 8.8%と前月（8.6%）から 0.2pt 悪化しており、足下の雇用改善の動きは高齢層、且つ非正規雇用者を中心に改善するなど偏りが生じているものと捉えられる。

図 3　KR　雇用環境の推移

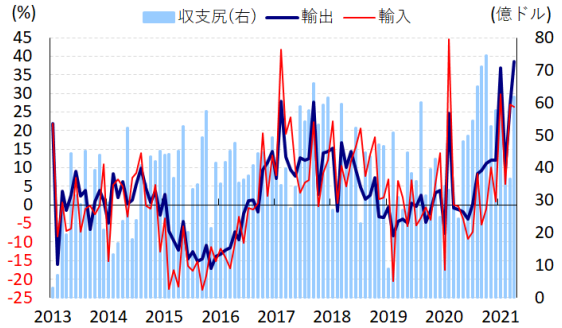


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～世界経済の回復を背景に主力の輸出財である半導体など電子部品を中心に輸出は底入れが続く～

７日に発表された４月の輸出額は前年同月比＋38.7%となり、前月（同＋27.1%）から伸びが一段と加速した。前月比も＋6.5%と前月（同＋3.8%）から２ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが進んでいる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、金属やプラスティックをはじめとする素材及び部材関連の輸出を中心に堅調な動きが続いている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けで底入れの動きに一服感が出ているほか、米国や欧州向けなども頭打ちする動きがみられる一方、日本向けで底入れの動きが一段と強まっている上、ＡＳＥＡＮなどアジア新興国向けの底堅さも輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比＋26.4%となり、前月（同＋27.0%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比も▲0.3%と前月（同＋6.0%）から４ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きを反映して原材料関連を中心に輸入額が押し上げられる動きがみられる一方、素材及び部材関連で輸入が底入れする動きに一服感が出ていることが重石になっている。結果、貿易収支は＋61.79 億ドルと前月（＋36.61 億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 4　TW　貿易動向推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。